

作業環境測定結果報告書（証明書）

殿

貴事業場より委託を受けた作業環境測定の結果は、下記及び別紙作業環境測定結果記録表に記載したとおりであることを証明します。

測定を実施した作業環境測定機関

① 名称		② 代表者職氏名	(印)
		②-(2) 作業環境測定結果の管理を担当する者の氏名	(印)
③ 所在地 (TEL、FAX)			
④ 登録番号		⑤ 作業環境測定に関する精度管理事業への参加の有無	無 有 (年度 参加 No.)
⑥ 連絡担当作業環境測定士氏名		⑦ 登録に係る指定作業場の種類	第 1 2 3 4 5

測定を委託した事業場等

⑧ 名称	
⑨ 所在地 (TEL、FAX)	

記

1. 測定を実施した単位作業場所の名称 :
2. 測定した物質の名称及び管理濃度 :
3. 測定年月日 (1日目) 年 月 日 (2日目) 年 月 日
4. 測定結果

測定日	1日目	2日目	1日目と2日目の総合	区分
A測定結果〔幾何平均値〕	$M_1 = ()$	$M_2 = ()$	$M = ()$	I II III
B測定値	$()$			I II III

()内には単位 [ppm・mg/m³・f/cm³・無次元] を記入

管理区分 (作業環境管理の状態)	第1管理区分 (適切)	第2管理区分 (なお改善の余地)	第3管理区分 (適切でない)
---------------------	----------------	---------------------	-------------------

【事業場記入欄】 (以下については事業場の責任において記入すること)

作成者職氏名	作成年月日 年 月 日
--------	-------------

- (1) 当該単位作業場所における管理区分等の推移 (過去4回)

測定年月日	年 月	年 月	年 月	年 月(前回)
A測定結果	I II III	I II III	I II III	I II III
B測定結果	I II III	I II III	I II III	I II III
管理区分	第1 第2 第3	第1 第2 第3	第1 第2 第3	第1 第2 第3

- (2) 衛生委員会、安全衛生委員会又はこれに準ずる組織の意見

- (3) 産業医又は労働衛生コンサルタントの意見

- (4) 作業環境改善措置の内容

㉖ 併行測定を行う測定点を決定した理由

(1) 粉じんの粒径の大きさ(特に、発じん時)

(2) 気流の影響

(3) 発生源からの距離

㉗ B測定 of 測定点と測定時刻を決定した理由

(1) 発生源に近接する場所における作業

(2) 濃度が最も高くなると思われる作業位置

(3) 濃度が最も高くなると思われる時間

㉘ A測定点の数を5点未満に決定した理由

(1) 単位作業場所の広さ

(2) 過去における測定の記録

㉙- (2) A測定点の間隔を6m超に決定した理由

(1) 過去における測定の記録

㉚ 測定に係る監督署長許可の有無

有 (許可年月日 年 月 日 許可番号) 無

5 全体図、単位作業場所の範囲、主要な設備、発生源、測定点の配置等を示す図面
(5ミリ方眼)

事業場名		作業場名	
<p>〔記号〕 ①、②、③……：A測定点 ㉞：B測定点 ●：併行測定点 ☒：発生源</p> <p> ：囲い式フード ：外付け式フード ←：気流方向 ：気流滞留状態 ：上昇気流 ：下降気流 ：気流拡散状態 ：気象測定地点 ：作業員位置 ：作業員移動位置 ：単位作業場所の範囲 ：換気扇 ：扇風機 ：プッシュプル </p> <p>※単位作業場所の縦・横の寸法は必ず記入すること。その他必要な事項については記載要領を参照。</p>			

6 測定データの記録

【A測定データ】

⑭No.	1日目		2日目		⑭No.	1日目		2日目	
	⑬測定方法 ⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮		⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮	⑬ ⑭ ⑮
1					11				
2					12				
3					13				
4					14				
5					15				
6					16				
7					17				
8					18				
9					19				
10					20				

【B測定データ】

⑮ C _{B1}				
C _{B2}				
C _{B3}				

7 サンプリング実施時の状況

⑲サンプリング実施時に当該単位作業場所で行われていた作業、設備の稼働状況等及び測定値に影響を及ぼしたと考えられる事項の概要

[作業工程と発生源及び作業人数]

[設備、排気装置の稼働状況]

[ドア、窓の開閉、気流の状況]

[当該単位作業場所の周辺からの影響]

[各測定点に関する特記事項]

天候		温度	℃	湿度	%	気流	～	m/s
----	--	----	---	----	---	----	---	-----

8 粉じん濃度の測定に使用した機器等 (1日目、2日目)

イ 分粒装置を用いるろ過捕集方法及び重量分析方法

ロ 相対濃度指示方法

イ	質量濃度測定	④① サンプラーの名称及び型式		④② 分粒装置の名称及び型式	
		④③ 吸引流量	L/min	④④ 捕集時間	分間
		④④-(2) 天秤の機器名及び型式 (読取限度)	(mg)	④④-(3) ろ過材の種類	
ロ	相対濃度測定 (併行測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型 式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑨-(2) サンプリング時間	分間		
	相対濃度測定 (A・B測定)	④⑤ 使用機器名		④⑥ 型 式	
		④⑦ 較正年月日	年 月 日	④⑧ 較正証番号	
		④⑨-(3) A測定のサンプリング時間			分間 (分間隔)

9 質量濃度変換係数の決定

併行測定の実施		⑤① 相対濃度	[]	⑤③ 捕集時間	分間	⑤③-(2) 粉じん量	mg
		⑤② 質量濃度	mg/m ³	⑤④ 質量濃度変換係数	K =		
過去の値の利用	測定実施日	相対濃度 []	質量濃度 mg/m ³	捕集時間 分間	質量濃度変換係数	相対濃度計の較正	
						較正年月日	較正証番号
	1回目						
	2回目						
	3回目						
	4回目						
		⑤⑤ 質量濃度変換係数	K =				
厚生労働省労働基準局長が示す数値		⑥① 質量濃度変換係数	K =				

10 遊離けい酸含有率の測定

⑪ 測定方法	エックス線回折法 (使用機器名及び型式: _____)		
	りん酸法	その他 (_____)	
⑪-(2) 自機関・外部委託	自機関	外部委託 (委託機関名: _____)	
		(機関登録番号: _____)	
		(測定者: _____)	
		(測定士登録番号: _____)	
⑫ 試料の種類	浮遊粉じん	堆積粉じん	原材料
	粒度調製方法	再発じん法	液相沈降法 その他 (_____)
⑫-(2) 定性結果	石英	クリストバライト	トリジマイト なし
⑫-(3) 定量結果	石英:		
	クリストバライト:		
	トリジマイト:		
⑬ 遊離けい酸含有率	$Q = \text{ \% } (\text{石英 \%} + \text{クリストバライト \%} + \text{トリジマイト \%})$		
⑬-(2) 分析日	_____年 _____月 _____日 ~ _____年 _____月 _____日 (_____日間)		

11 測定結果

A測定	区分	1日目	2日目	M及びσ
	⑰ 幾何平均値		$M_1 = \text{ mg/m}^3$	$M_2 = \text{ mg/m}^3$
⑱ 幾何標準偏差		$\sigma_1 =$	$\sigma_2 =$	$\sigma =$
B測定	⑲ 第1評価値	$E_{A1} = \text{ mg/m}^3$		
	⑳ 第2評価値	$E_{A2} = \text{ mg/m}^3$		
	㉑	$C_B = \text{ mg/m}^3$		

12 評価

㉒ 評価日	_____年 _____月 _____日			
㉓ 評価箇所	㉑の単位作業場所と同じ			
評価結果	㉔ 管理濃度	$E = 3.0 / (1.19Q + 1) = \text{ mg/m}^3$		
	㉕ A測定の結果	$E_{A1} < E$	$E_{A1} \geq E \geq E_{A2}$	$E_{A2} > E$
	㉖ B測定の結果	$C_B < E$	$E \times 1.5 \geq C_B \geq E$	$C_B > E \times 1.5$
	㉗ 管理区分	第1	第2	第3
㉘ 評価を実施した者の氏名	_____			